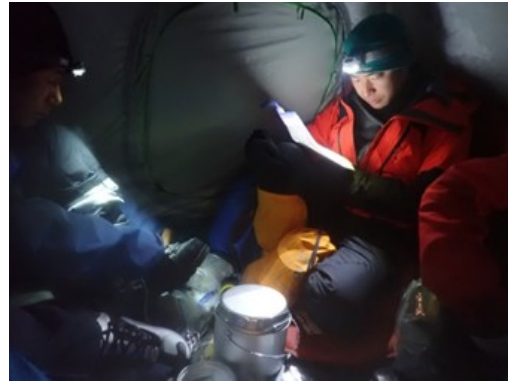


## 南日高 野塚岳～広尾岳

芽室岳から南下して雪の日高を襟裳岬までつなげようという「日高シリーズ」もいよいよフィニッシュが近い。いつものメンバーにMさんという強力な助っ人が加わってくださり、準備万端だ。

### 12月29日（土）：小雪

朝の帯広空港に予定通りメンバーが揃う。これで計画の7割は成功したようなものだ。後は歩くだけである。タクシーの運転手も顔なじみで、前はあそこへ送った、なんて話を交わすのも楽しい。今回の入山は天馬街道の野塚トンネル、半年前のGWに下りてきたところだ。日高では主稜線に最も近いアプローチと言っていいだろう。平野ではずっと晴れていたのだが、トンネルに着くころには小雪の舞う冬らしい天気となっていた。駐車スペースでタクシーを降り、仕度を済ませる。そこから少し下り小川を渡るとすぐ尾根の取付きだ。やはり雪の付きが悪い。ズルズル滑る急斜面をごまかすように藪をつかみ登る。100mほどで尾根に出たが、そこから先もGWと比べて藪っぽく歩きづらい感じだ。交代しながら登るものの、やはり初日は体が慣れていないのか、重荷のせいかな、キツイ。主稜線直下はGWに見た時いい天場と思ったのだが、この時期は傾斜と藪でありあまり良くなかった。主稜線に立つと急に西風を受けて寒い。ガスっぽいし、あまり先に進めてもいい天場が無さそうだったので、少し進んだところでサッサと泊りを決めた。（田村）



### 12月30日（日）：風雪後晴れ

前日からの風が心配だったが、朝起きてみると天気は今一つなもの、風は思ったほどは強くななくて一安心だ。だが、バリズボラッセルに苦しめられ、なかなか行程がはかどらない。長いなあと思いつつ、ようやく野塚岳に到着した。この調子だとどこまで進めるやら。アメリカ出張で大量のポテトにやられた野口君は、この山行までに体重を増やしてしまい、ラッセルが更に辛そうだ。野塚を越えたあたりから天気が回復してきて、遠くの山までよく見える。オムシャヌプリは越えられるかと思つたが、オムシャの片方のピークを登ったところで「そろそろ天場を」の雰囲気になり、もう一方のピークとの間を天場とした。（栗原）

[ここに入力]



[ここに入力]

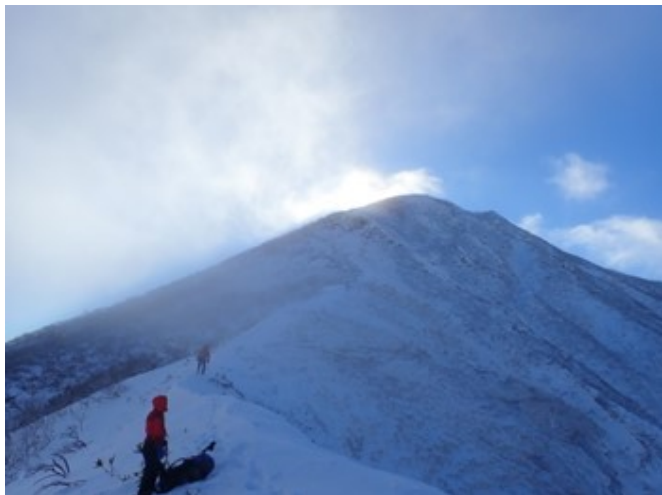


### 12月31日(月)：晴れ

3日目。疲れは溜まってきているが、先はまだ長い。テントの外に出ると、昨日とは違って晴れている。安堵して歩きだす。少し上るとオムシャヌプリの東峰についた。南側には、十勝岳、さらにその先には円錐形できれいな楽古岳が見える。楽古岳は下山した広尾からも綺麗に見えて、この辺りを代表する堂々たる風格を備えている。

オムシャヌプリからの下降は稜線を少し巻くとズボズボと沈んで体力を奪われる。ここから十勝岳は、2か所のポコを越えながら少しづつ標高を下げて、250mの登り返しとなる。ハイマツの上に雪の載ったズボズボと足を取られる日高の稜線歩き。栗原さんとMさんはどんどん先に進んでいく。へろへろになりながら歩いていると、田村さんの歓声が聞こえた。ブロッケン現象だ。随分久しぶりに見た。冬の日高で見られるとは、つらく地味な稜線歩きに、一服の清涼剤となった。

十勝岳からの下りは少し急な斜面で、笹の上に雪が載っていてズルズル滑っていやらしい。慎重に歩いても転んで体力を奪われてしまう。せっかく250m登ったのに、350mも降りる。そこから1285mのポコを越えると楽古岳への最後の登り。今日はここまでとする。天気が良く、距離が稼げて良かった。(野口)



### 1月1日(火)：風雪後晴れ

朝起きるとガスっていた。初日の出はぼんやりと十勝の海に浮かぶ。う～ん、昨日のうちに頑張っておけば良かったか…。でも今のところ視界はそんなに悪くないし、風も強くない。進むのをためらう材料は何もなかった。

[ここに入力]

[ここに入力]



ガスの中、比較的順調に楽古岳の山頂に着く。しかし写真もそこそこに下りようとしたその時、急に視界が悪くなり、風が強まってきた。この下りはわかりづらく一番嫌なところだ。方向を定めつつ突っ込む。途中で尾根がはっきりしないのでGPSを出したところ、突然バッテリーが切れてしまった。普段よりもたないのは寒さのせいか、いずれにしてもタイミングが悪い。幸いすぐに尾根が見つかったから良かったものの、大きな反省である。

そこから先は何てことのない尾根のアップダウンなのだが、視界が悪く、西風がずっと吹き続ける。メガネが曇るのでオーバー手で拭くが、すぐに元通りだ。おまけに目出帽の中でメガネのつるが耳にうまく掛からなくて、歩きながら何度も直す。次第に右目の脛が重くなってきた。どうやら凍傷にやられてしまったらしい。次第に視界は開け、風も弱くなってきた。ピロロヌプリ (1269m 峰) まで来るといよいよ間近に広尾岳が見える。但し山頂には尾根をぐるりと回っていかねばならない。計画では広尾岳からさらに南下するルートも考えていたが、今回は広尾のピークから素直に下界に向かうのが美しいだろう。皆の気持ちも一致した。明晩はもう下界に近いはずだ。(田村)



### 1月2日(水)：曇り朝晴れ時々小雪

いよいよ広尾岳が射程距離に入ってきた。朝晴れていた空はじきに雲で覆われ、小雪が舞い始める。しかし、もう下山後を思い描けるせい、皆の足取りも確かで名前のないピークを順調に越えていく。しかし、途中で田村さんのスノーシューの片方が壊れてしまった。うーん、いつか見た光景だなあ…。山行の終わりの方で良かった…。とりあえず応急処置をして以降騙し騙し歩くこととなった。P1186 は主稜線と広尾岳の分岐で、ここで日高の主稜線に別れを告げる。田村さんと野口君はこの先の様子を丹念に伺っていた。再びこの主稜線をたどるのはいつの日か。広尾岳山頂はこの山行の最後のピークだ。日高の山々ともしばしお別れ、名残惜しみながらも、下山後のお風呂やビールに思いを馳せる。下りは、当初の予定はやめ、ピンクテープのついている北東尾根にとった。途中までは下りやすく至極快適な斜度だ。ただし雪は深く、上りとなったら大変そうだ。途中からは尾根を逸れ、スノーシューを脱いで急斜面の下りとなる。尾根末端からは沢浴いのコースになり、間もなく水が出てきた。適当に緩やかそうな場所を天場とする。もう下界に近いせい、私は立て続けにポカをやり、皆に笑われる羽目となるのだが、それはここでは伏せておこう。明日はお風呂とビールが待っている。(栗原)

[ここに入力]

[ここに入力]



### 1月3日(木) : 晴れ

起きるとテントが乾いている。稜線では毎日、霜で真っ白だったのだが、下界が近いことを実感できる。ヒロオのピークでヒロウのピークを迎えて足が棒のようだが、今日は下山だけなのであと少し。西広尾川の支流に沿って、ピンクテープをたどって降りていくが、ピンクテープが無くなり、道が良くわからない。支流を右岸へ左岸へと何度も渡渉し、1時間半ほど下ると、本流の出合へ。

浅いところを見つけて本流を左岸へ渡渉すると林道に到着。まっすぐに伸びている林道を歩く。快晴で、振り返ると南日高の稜線が青空に映える。名残惜しさを感じながらも2時間ほど歩くと国道へ。タクシーを呼んで広尾の町に下山した。民宿で打ち上げをし、久しぶりの布団で目標の広尾岳に到達した心地よい疲労感に包まれながら眠ったのだった。(野口)



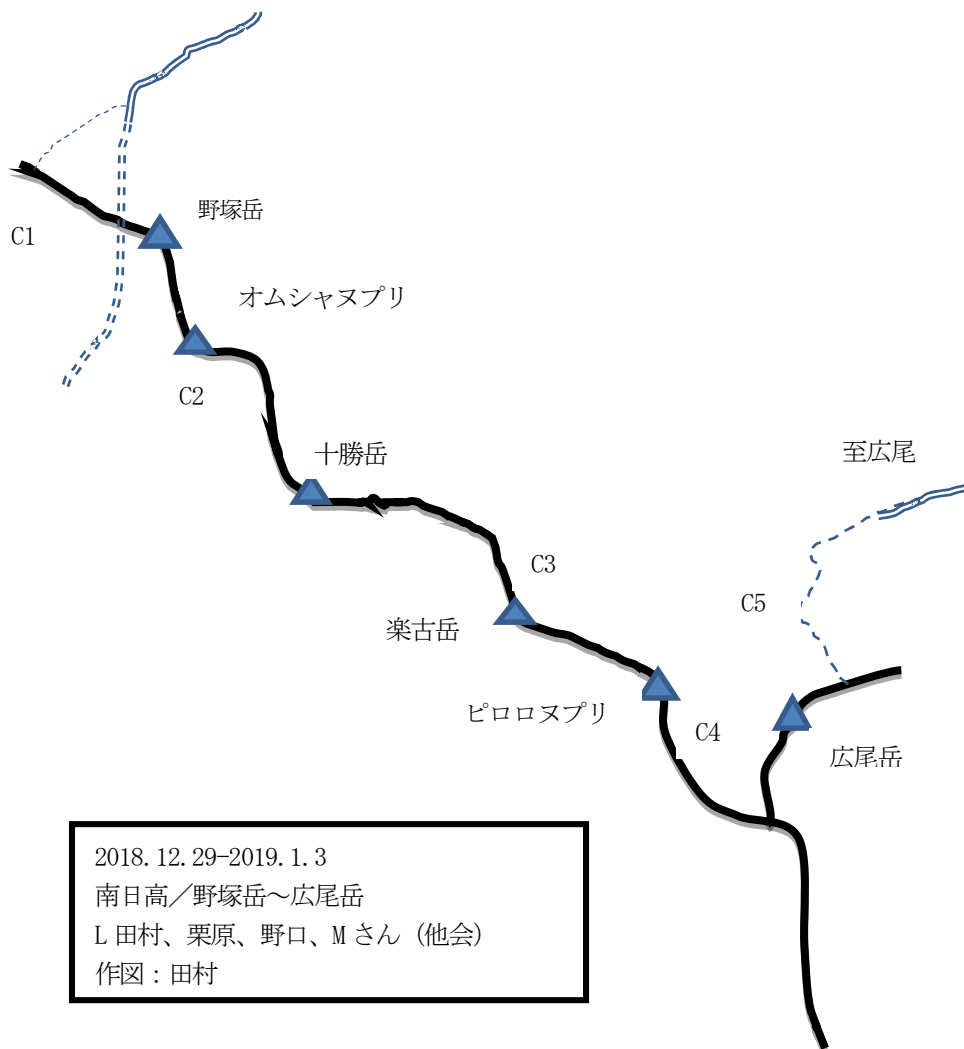
### 【行程】

- 12/29 野塚トンネル入り口 10:30—主稜線 14:00—Co. 1120m 14:30 C1  
 12/30 C1 7:00—野塚岳 10:16—オムシャヌプリ西峰 14:00—オムシャコル 14:30 C2  
 12/31 C2 7:00—オムシャ東峰 7:23—十勝岳 10:40—楽古手前 Co. 1243m C3  
 1/1 C3 7:00—楽古岳 8:20—ピロロヌプリ 14:52—1225m付近 C4  
 1/2 C4 7:00—広尾岳分岐 11:50—広尾岳 13:30—北東尾根—Co. 550m C5  
 1/3 C5 6:45—林道 8:17—国道 10:35



[ここに入力]

[ここに入力]



2018. 12. 29-2019. 1. 3  
南日高/野塚岳～広尾岳  
L 田村、栗原、野口、M さん (他会)  
作図：田村